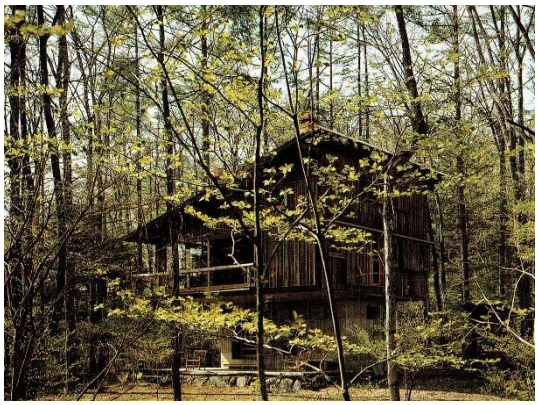
BELLS LETTER

Oct.2022 VOL.040 presented by BELLS

波乗りリフォーム屋の独り言

吉村順三建築



右の写真は建築家吉村順三さんの自身の別荘「軽井沢の山荘」です。自身の別荘であり、代表作でもあるこの山荘は建築を勉強したことのある学生なら知らない人はいないくらい有名で、このベルズレターVol.34 の軽井沢特集でもご紹介しました。数ある山荘の写真の中でも自分が一番好きな写真です。ひっそりとしたその佇まいは全く違和感なく森に溶け込み、吉村さん自身が言う「鳥になったような暮らしのできる家」を体現している１枚です。　吉村氏は 1908 年東京生まれで、東京美術学校（現東京藝術大学）で建築を学んだ後吉村順三設計事務所を開設します。日本の初期のモダン建築を代表する建築家で数多くの和風と近代様式を折衷したモダン住宅を手がけてきました。吉村氏が手がけた住宅は、今でも大切にメンテしながら住み続けられているものが大変多く、どれだけ魅力的な建築だったのかが窺い知れます。　さてちょっと前置きが長くなりましたが、今回はそんな数ある吉村建築の中で湘南エリアに今も現存する建物をいくつかご紹介したいと思います。

湘南茅ヶ崎の家

ゴルフ好きな住み手がゴルフ帰りの仲間を集めて 19 番ホールを楽しもうという、ゴルフクラブ「スリーハンドレッドクラブ」の敷地内に建てられた住宅。1 階は車庫から直接入れる仲間たちのゲームルームや宿泊室が用意され、2 階は今でこそ一般的になったアイランド型キッチンが設置され皆でわいわい料理が出来る間取り。延べ床面積はなんと 140 坪！現在は「湘南ビール」でも有名な湘南唯一の造り酒屋の熊澤酒造の社長さんのご自宅という事です。購入当時は年数なりの劣化が見られ手を加えられたようですが、大きく作り変える事はせず、当時のままの状態で大切に住まわれているとの事。ちょっと話はそれますが、この熊澤さんのご自宅近くにある熊澤酒造の本社敷地内には日本酒の酒蔵の他にレストランやベーカリー、クラフトビールの工場などがあります。敷地内は緑に囲まれ、とても雰囲気のある空間。建物の外壁には杉板が貼られ、まるで軽井沢の山荘のよう。こんなところにも吉村イズムを感じます。またレストランは築 450 年の古民家を移築した建物で古いもの好きの自分にはたまりません！美味しいお酒やお料理はもちろん、タイムスリップしたかのような素敵な空間を感じるだけでも行く価値ありです！

湘南秋谷の家

葉山の秋谷海岸の波打ち際に堅固な防波壁を作り、その上に 2 家族の為に作られた連結住居です。全ての部屋から海が眺められ、防波壁と建物の間はテラスにすることで、海際という最高の立地を最大限に活用した白亜の建物。低いプロポーションと海との一体感を感じられるフォルムが美しいです♪ 2015 年に吉村イズムを随所に残しつつリノベーションが行われ、アンティークヴィラ HAYAMA Funny House というリゾート施設として蘇りました。

公式ホームページをのぞいてみると、そこは別世界！この上ない贅沢な海辺のロケーションに広々としたプライベートテラス。1日2組だけに開放されるまさに大人の隠れ家です。ヴィラにはフレンチレストランやスパ・エステなどが併設され至れり尽くせり。何だか建築の話から大きく脱線してしまいましたが、気になる方は一度チェックしてみてはいかがでしょうか。

鎌倉山の家

最後は 1974 年竣工の鎌倉山の家です。今までご紹介してきました吉村建築とは異なり公にはされず、ごく限られた人しか知らなかった幻の住宅です。自分がこの住宅を知ったのは雑誌 Casa brutus のリノベーション特集です。YAECA というアパレルブランドのデザイナー服部哲弘さんが購入して「オリジナルを活かしながら、今の暮らしに合う空間を作る。」をテーマにリノベーションで鉄筋コンクリート造3階建住宅を再生するという記事でした。リノベーションと言っても原型の持ち味を最大限尊重して修復するといったところは「湘南茅ヶ崎の家」、「湘南秋谷の家」も同じですね。ところでこの鎌倉山の家は現在、ink gallery というギャラリーとして運用されているようです。不定期ではありますが、催し物が開催され一般開放されるようなのでタイミングが合えば是非とも行ってみたいところです。

いかがでしたでしょうか。今回は吉村さんの湘南エリアの住宅建築をご紹介しましたが、住宅だけではなく音楽堂、旅館、皇居新宮殿まで、建築の規模、用途にかかわらず住まう人、使う人の居心地の良さを求めつづけた吉村建築は今も大切に受け継がれています。これほどもまでに愛される理由は最後にご紹介する吉村さんの言葉からも納得させられます。

「建築家として、もっともうれしいときは、建築ができ、そこへ人が入って、そこで生活がおこなわれているのを見ることである。　日暮れどき、一軒の家の前を通ったとき家の中に明るい灯がついて、一家の楽しそうな生活が感じられるとしたら　それが、建築家にとっては、もっともうれしいときなのではあるまいか」

ウッドショックのその後

こんにちは。天内です。 最近、世界的なコロナ禍の影響で建築資材、設備機器が相次いで値上げされています。我々の業務にも関係してくるのですが、特に木材は2週間に1回くらいの割合で徐々に値上がりを見せています。ウッドショックはなぜ起きたか。 いつ終わる？今回はその辺を少し掘ってみたいと思います。

〇コロナが原因？

ウッドショックの原因は、新型コロナウイルスがほとんどと言われています。アメリカでは、リモートワーク等が多くなったことで住宅に対する意識が高まり、さらに住宅ローンの低金利などの政策も影響して新築住宅やリフォームの需要が高くなりました。そのため、木材の需要が高まり、アメリカに木材が流れていったそうです。木材の需要が高まったのは、アメリカだけではありません。中国やヨーロッパでも木材の需要は高くなっています。中国では、昨年のコロナ収束宣言により景気が回復し、住宅の需要が高くなっています。また、石造のイメージが強いヨーロッパ、特にドイツ、オーストリアでは低炭素社会など環境意識の高まりもあり木造住宅の需要が高まっている傾向にあるそう。ウッドショックの原因は、アメリカだけでなく他海外による木材の需要の高騰が原因なのです。

〇日本側の対応の甘さ？

では、日本では一体どうして世界的なウッドショックの影響を受けてしまったか。一説には、材木の国内自給率の低さ（40%前後）やバイヤー、商社の「読み」の甘さが招いてしまった、とも言われています。つまり、「価格はそのうち戻る」「安くなったら買えばいい」などのリスク管理意識の低さにあるとも。だとしたら本当に情けない限りです。

〇落ち着いたと思ったら

コロナ禍で住宅需要の高まりと２０２１年１月から住宅ローンの金利の引き下げの影響でアメリカの住宅ブームが始まりましたが、２０２２年に入り落ち着き始めました。その原因は、２０２１年１１月以降から金利が上昇し始めたからです。今後はアメリカの住宅ブームによる影響は少なくなっていくと予測されています。しかし、今度は今年に入ってロシアがウクライナに侵攻したことが原因で、世界各国がロシアとの取引を中断、一時見合わせなどの処置を講じたことで、ロシア産針葉樹の木材が不足するようになりました。と、なれば同じような気候のカナダやニュージーランドなどの木材が値上がるのは必至。いつ落ち着くのか誰もわからない状況に。

〇今こそがんばれ！日本の木材

そもそもなぜ輸入木材に頼らなければならいのか。国産木材を使えば世界情勢なんて関係ないはず。伐採や乾燥に手間がかかる？その分輸入材より価格が高い？そうですね。そのような意見があることも知っています。ですが、それはコロナ以前の世界。今は全く状況が違っています。今しか国産材へシフトするチャンスなんて中々無い！と、個人的には思ってしまいます。国産材の普及に林野庁やその他のお役所も、もっともっと頑張ってほしいと願っています。

〇お早めに

とは言え、この木材や資材高騰のトレンドはこれからスタンダードになってしまうかも知れません。リフォームやリノベをお考えの皆様、特に木材、天然資材をふんだんに使おうと思っている方々はお早めに計画を進められることをお勧めします。決して営業でないですよ（笑）

塗料様様

20

こんにちは。塩谷と申します。最近、業務で塗装に関わる機会が多く、塗料にも詳しくなってきました。そんな中で変わり種の塗料も色々発見したので、その中のいくつかをご紹介したいと思います。まずご紹介するのは、TOOLBOX で販売されている「アイアン塗料（ブラック)」です。これは、プラスティックでも木材でも塗るだけでブラックアイアンに見えてしまうという優れものの塗料です。なんでも塗れますが、ビニール系のモノは溶けてしまうことがあるそうなので NG です。また、プラスティックなどはプライマーなど下処理をしないと塗料がはじいてうまく塗れないようです。なので、木でできたテーブル脚などが最適ではないでしょうか。写真のようなプラスティックの容器も感じが全く変わりますのでお勧めです。

お次にご紹介するのは、塗るだけで経年のひび割れ塗装を表現できるターナー「クラッキングメディウム」です。こちらは少し手間がかかります。まず、ひび割れの下色（ひび割れから少しのぞかせたい色）を先に塗装して、次に上塗りのひび塗装を塗ります。そうすると塗り始めたところから徐々にひびが出てくるそうです。そうです、というのは、自分はまだこの塗料を使用したことがなく、機会があればぜひ使ってみたいと狙っている塗料だからです。実際に使用した際は詳しくリポートしたいと思っています。

お次は、日本古来から使われている自然塗料、柿渋。柿渋というのは渋柿を青いうちに収穫し、発酵させた赤褐色で透明な液体。ポリフェノールの一種、柿タンニンを豊富に含んでいます。柿タンニンは、防水、防虫、防腐、消臭効果などがあるといわれており、家具の塗りや衣類の染めに使うことで、その効果が発揮されます。また、デオドラント効果も高く、特に加齢臭対策用の石鹸やシャンプーなどに用いられています。（重要）自然塗料で水のようにシャバシャバの液体ですが、意外とムラになりやすいので、少し薄めて塗ると綺麗に仕上がります。現在でも神社の塗装に用いられたりと、意外と目にする機会は多いかもしれません。写真右は柿渋 2 年目の我が家のフェンス、レッドシダーです。年１で重ね塗りする目標であります。頑張ります。自然塗料ならではの経年変化が楽しみです。注意点としては、まず耐久力は劣ります。屋外での使用は定期的なメンテナンスを前提に考える必要があります。ビス等の鉄に反応し、黒いアクが出ます。コンクリートなどに垂らすと、色が落ちませんので養生は念入りにしたほうが良いです。衣服につくと落ちません。お気に入りの T シャツで作業しないようにお願い致します。柿渋は前述の通り、衣服の染料としても使われているそうなので、あの日柿渋で汚したＴシャツを綺麗に染めてみようと思います。

最後に柿渋との相性バツグンの自然塗料、蜜蝋（みつろう）。蜜蝋は、ミツバチが六角形の巣を作る材料として、働き蜂の腹部にある分泌腺から分泌するロウのことです。ミツバチの巣から得られたものを溶かして固め、ブロック状にしたもので、別名ビーズワックス又はビースワックス（Beeswax)とも呼ばれます。羽化後、12～14 日を過ぎた働き蜂は、はちみつや花粉を食べながら、お腹にあるろう腺からミツロウを分泌し、巣を作るのです。 主成分はワックスエステル（パルミチン酸ミリシルなど）で優れた保湿性と光沢があり、化粧品にも使われています。蜜蝋の色は淡黄色、濃黄色、黄橙色、茶色など様々で、ミツバチの巣によって異なります。 蜜蝋は主に、床ワックス、革製品のメンテナンス、ろうそく、クレヨンの材料として使われています。木部に使用した蜜蝋は、撥水性を持ち、少し光沢が出て、木目の表情が豊かになります。木の呼吸を妨げないとも言われ、より自然な経年変化を味わえる事が大きな利点だと思います。自然塗料で着色して、ウレタンで閉じてはせっかくの風合いの変化が味わえないので、より豊かな風合いを楽しむ選択肢として蜜蝋ワックスもありではないでしょうか。日々色々な材料に触れるので、また気になったものを紹介させてください。

それでは最後に秋の夜長にオススメの曲を紹介して終わりにさせて頂きます。
cannonball adderley / capricorn
MILE DAVIS 作品などの参加でも知られる、黒人ジャズアルト・サックス奏者で、アルバム”Music, You All ”から’capricorn’。ぜひ聞いてみてください。

Bells Kitchen

毎年同じ事を言っていますが、「今年の夏も暑かった･･･」朝晩と犬の散歩に行きますが、朝５時の時点で 28℃なんて事も珍しくなく。それでも少しでも涼しい時間を見計らって出発するもやはり蒸し風呂のような中を犬も人もヒーヒー、ハーハー言いながら何とか乗り越えた夏でした。そしてやっ

とやっと待ち焦がれた秋がやってきましたよー!!秋刀魚に鮭、お芋に栗にキノコ🍄秋は一瞬で過ぎ去ってしまうので、旬のモノを満喫しましょう。今回ご紹介するのは「秋鮭の南蛮漬け」ビールにもごはんにもぴったり。作り置きも出来るので多めに作ってお弁当にも!!是非お試しあれー!!

材料

鮭の切り身　4切れ
玉ねぎ　1/2
片栗粉
油
小ねぎ（お好みで）

漬け汁
- 赤唐辛子　2本
- 醤油　大4
- 酢　大4
- 砂糖　大1
- ごま油　大3

作り方

玉ねぎを薄くスライスして水にさらす。

漬け汁の材料を混ぜる。

玉ねぎの水気を切って混ぜる。

鮭を3,4等分に切り、片栗粉にまぶす。

油で揚げる。

熱々のうちに漬け汁の中へ加えてあえる。

粗熱が取れるまで置いておくとしっかり味が染みこみます。そのまま食べても良し、冷蔵庫で冷やしても良し。小ねぎを散らして召し上がれー!!

看“板犬”のつもりが“番犬”！？

このベルズレターでも何回か記事にしました保護犬のツキとロクです。２年前に右側のツキを迎え入れ、その１年後に左のロクがやってきました。性別も性格も正反対の２匹ですが、とても仲良く過ごしています。左の写真は朝の寝起きの“ワン”ショットです。普段人一倍警戒心の強いツキですが、穏やかで一番ご機嫌な時間帯です。２年前に保健所に引き取られてきた野良犬だった事を思い返すと（迎え入れた当初は壮絶な日々でした・・・ベルズレターVol.33 参照）本当に変わったなぁ～と思う一枚です。（ビビりは相変わらずですが・・・）対してロクは最初からフレンドリー犬。きかん坊ですが人、犬問わず誰にでもシッポを振ってあいさつ出来ます。また先住犬のツキにも気を使い、上手くバランスを取って生活しています。そんな２匹ですが、共通点があります。“番犬気質”です。右の写真は普段の２匹の生活の一コマです。

リビングからずーっと前の通りを見て家を見張っています。知らない人やワンコが通り過ぎようものなら２匹一斉に“わうわうわうわうっ。”もはや街の関所！？と化しています。また玄関にピンポーンと宅配の方やお客様が来た時にも“わうわうわうわうっ。”はたまた息子にも！？“ご近所の皆様申し訳ありません・・・この場をお借りしてお詫び申し上げます（涙）。警戒心の強さや、縄張り意識からくるものなのか理由はいろいろ考えられますが、基本的に犬は吠える動物。吠えるなと言っても無理な相談だとは思いますが何とか解決策を模索していきたいと思います。

編集後記

右の写真は現在進行中の現場の様子です。外側のウッドデッキの工事ですが、翌日以降、雨予報なので、ブルーシートで雨よけを貼って作業しています。一般的に雨の多い月は梅雨時期の６月をイメージしますが、実は９月が最も多いんです。台風に秋雨前線等、思い返しても９月は本当に雨が多い。またそんな９月に現場が集中してしまったりするんです。ただそんな状況の中、何とか工期に間に合わせようと写真のように現場の職人さんたちが奮闘してくれています。本当に感謝です。さてそんな現場ラッシュの中、ベルズレターの発行も遅れてしまいましたが、2022 年もいよいよ第４クォーターに突入です。１年を締めくくるにはちょっと早いですが年末まで頑張りたいと思います！次回は年明け１月発行予定です！お楽しみに！